第 65 回　「カタリン・カリコ」の言葉

増田ユリヤ著、「世界を救う mRNA ワクチンの開発者　カタリン・カリコ」（ポプラ新書 215、ポプラ社 2021 年 10 月）は 40 年もの間mRNA 一筋に研究を続け新型コロナワクチンの開発の基礎を築いたカタリン・カリコ（Katalin Kariko、以下では KK と略記： 1955 年 1 月　ハンガリー・ソルノク生)の研究人生を解説しています（著者による KK へのインタビュー内容を含む)。KK はその業績により 2023 年のノーベル生理学・医学賞を受賞したのは記憶に新しいニュースですね。

KK は研究がうまくいかないとき、「自分には何か足りないのではないか、賢くないんじゃないか」と思ったこともあったそうです。しかし「すべてはここにある。もっといい実験をすればいいのよ」と、絶対にあきらめず、どんな時にも自分の信じる道を素直に進んでいく力を持っていたそうです。KK は RNA の可能性について大きな情熱を持っており、RNA の伝道師、通訳者でもあったため、「RNA ハスラー」とまで呼ばれていたそうです。このように KK の研究テーマは首尾一貫しており、KK は一直線の研究人生を歩んできました。KK はしっかりしたビジョン、ブレない研究テーマを持ち、それを達成するために多くの困難に打ち勝って来ました。研究はいつもうまくいくわけではなく、多くの困難を乗り越えていかなければならないことを KK は我々に再認識させてくれたのです。ドレスト光子、オフシェル科学の基礎研究は私にとってブレない研究テーマですので、こテーマの伝道師として一直線の研究人生を送りたいものです。

KK はハンガリーの出身ですが、ハンガリー人の中には信じられないようなバックグラウンドから出て、まわりまわって研究者や知識人になった例がたくさんいるそうです。著者によると KK はそういう人たちから受け継がれてきた知識や考え方、生きる規範を受け継いでいるとのことです。すなわちモラルを大切にし、それを信じて正しい道を進むのがハンガリー人の気質であると指摘しています。KK は真のハンガリー人のロールモデルであり、ハンガリー人としてポジテイブな影響を世界に与えることができることを証明したのです。KK は「目標を達成したときに人は幸せになれるだろう。しかし、すぐに次の新しい目標を定め、その道を歩んでいくことが美しい人生なのだ。」と自らを励ましているそうです。KK はさらに「科学者はロックミュージシャンのようなものです。彼らが生涯歌い踊り続けるように、私も生涯研究を続けます。」と語っています。

KK の研究内容は斬新すぎたため研究資金を獲得することができなかったそうです。すなわち画期的な発見にもかかわらず、大学では相変わらず冷遇され続け、発表した論文が学会で注目されることもありませんでした。特許をとらないと誰も投資してくれないと言われたのでやむを得ず特許を取得したそうです。決して自身の金稼ぎのためではありません。しかしそれでも知財担当者は「これのどこが優れているのか」と聞くばかりで、全然乗り気ではなく KK の発見を理解しませんでした。以上のような逆風はドレスト光子、オフシェル科学でもしばしば吹き荒れたことを記憶しております。

しかしいくら冷遇されても KK はブレることが無く、遂には大きな仕事を成し遂げたのです。著者は「KK の研究は基礎から応用への『死の谷』を乗り越えるのに 10 年～30 年という長期の視野が必要であることの

典型例」であると指摘しています。

しかし長期にわたって挑戦すべき独創的かつ斬新な研究テーマを見つけられること、そしてそれを一直線の研究人生の道しるべとすることができれば、研究者としては最高の幸せではないでしょうか？